

別紙 CN行動計画参加各社の長期目標・ビジョンVer1.1 (2023年10月31日時点 一部11月6日時点の情報も含む)

Ver1.0からの変更内容を赤字で表記しています

①電機・電子温暖化対策連絡会カーボンニュートラル行動計画参加企業 (グループ参加の場合、筆頭企業名) http://www.denki-denshi.jp/partner_company.php	SBTi認定企業 (他) の中長期目標・ビジョン (調査: 2023年10月31日時点 ※一部企業は11/6時点の情報) https://sciencebasedtargets.org/companies-taking-action#dashboard N: Near term, L: Long term, Z: Net zero						③2030年・2050年に向けた自社の長期ビジョン・環境目標 ※GHG・CO ₂ 削減に関する内容のみピックアップ ※SBTi認定されている内容も含む
	目標水準	Scope	基準年	目標年	指標	削減内容 (※ Global GHG排出量)	
ソニーグループ(株)	N 1.5℃ L 1.5℃ Z FY2040	1+2	2018年	2035年	総量	排出量を72%削減	「Road to Zero」 ・カーボンニュートラルの達成年を2040年へ前倒し ・「RE100」100%再エネ化の達成目標を2030年へ前倒し ・カーボンニュートラルおよび再エネ100%に向けた施策 - 自社事業所における継続的な環境負荷低減 - ソニー製品の省エネ化のさらなる推進: - パートナーへの働きかけ強化: - 炭素除去・固定への貢献
		3	2018年	2035年	総量	販売した製品の使用をカバーする排出量を45%削減	
		3	-	2025年	-	購入した製品・サービスの排出量の10%に相当するサプライヤーに科学に基づく削減目標を策定	
		1+2+3	2018年	2040年		排出量を72%削減	
(株)日立製作所	N 1.5℃	1+2	2010年	2030年	総量	排出量を100%削減	「日立環境イノベーション2050」 ・2050年度CN達成 ・2030年度 CO ₂ 排出量 50%削減(2010年度比) ・事業所 (ファクトリーオフィス) における2030年度CN達成
		3	2010年	2030年	総量	排出量を40%削減	
(株)リコー	N 1.5℃ Z Committed	1+2	2015年	2030年	総量	排出量を63%削減	「リコーグループの環境目標」 << 2050年目標 >> バリューチェーン全体のGHG排出ゼロを目指す 事業に必要な電力を100%再生可能エネルギーに切り替える << 2030年目標 >> GHGスコープ1, 2: 63%削減*3 2015年比 GHGスコープ3: 40%削減 2015年比 (調達、使用、物流カテゴリー) 事業に必要な電力を50%再生可能エネルギーに切り替える *3 SBT (Science Based Targets) に沿った削減目標 ※ GHGスコープ1: 自社の工場・オフィス・車両などから直接排出されるGHG ※ GHGスコープ2: 自社が購入した熱・電力の使用に伴うGHG ※ GHGスコープ3: 企業活動のサプライチェーンの排出量 (GHGスコープ1, 2を除く)
		3	2015年	2030年	総量	購入した製品、輸送、販売した製品の使用による排出量を40%削減	

①電機・電子温暖化対策連絡会カーボンニュートラル行動計画参加企業 (グループ参加の場合、筆頭企業名) http://www.denki-denshi.jp/partner_company.php	SBTi認定企業 (他) の中長期目標・ビジョン (調査: 2023年10月31日時点 ※一部企業は11/6時点の情報) https://sciencebasedtargets.org/companies-taking-action#dashboard N: Near term, L: Long term, Z: Net zero						
	②SBTi認定されたGHG排出量の削減目標						③2030年・2050年に向けた自社の長期ビジョン・環境目標 ※GHG・CO ₂ 削減に関する内容のみピックアップ ※SBTi認定されている内容も含む
目標水準	Scope	基準年	目標年	指標	削減内容 (* Global GHG排出量)		
シャープ(株)	N WB2℃	1+2	2018年	2031年	総量	排出量を33%削減	長期環境ビジョン「SHARP Eco Vision 2050」 <2050年目標> 自社活動のCO2排出量をネットゼロへ サプライチェーン全体で消費するエネルギーを上回るグリーンエネルギーを創出 なお、長期環境ビジョンの実現に向け、それぞれの分野における具体的な取り組みや定量的な目標を設定した「中期環境目標」の策定を進めています。「気候変動」に関しては、2050年の自社活動のCO2排出量ネットゼロに向け、CO2排出量を2030年までに40%削減、2035年までに60%削減という目標を掲げました
		3	2018年	2031年	総量	販売した製品の使用からの排出量を33%削減	
(株)東芝	N WB2℃ Z Committed	1+2	2019年	2030年	総量	排出量を28%削減	「長期ビジョン」環境未来ビジョン2050 「サプライチェーン全体でCNを実現 (2030年度までにGHG排出量を70%削減(2019年度比)) 2030年度目標 (2019年度比) ・Scope1、Scope2を2030年度までに 100% 削減※1 (2019年度比) ・Scope3を2030年度までに 70% 削減※2 (2019年度比) ※1: 排出量の削減が困難なプロセスガスなどは、カーボン・クレジットの購入を含めてカーボンニュートラル化を履行。カーボン・クレジットの購入を除いた場合の目標は70%削減に設定。 ※2: 特に排出量の大きいカテゴリ11 (販売した製品・サービスの使用による排出) およびカテゴリ1 (購入した製品・サービス由来の排出) を中心に削減施策を推進。
		3	2019年	2030年	総量	販売したエネルギー供給製品・サービスの使用による排出量を50%削減、販売したエネルギー消費製品・サービスの使用による排出量を14%削減 <i>*The target boundary includes biogenic emissions and removals from bioenergy feedstocks.</i>	
日本電気(株)	N 1.5℃ Z Committed	1+2	2017/18年	2030/31年	総量	排出量を55%削減	「2050年を見据えた気候変動対策指針」 ・2050年にScope1,2,3からのCO2排出量実質ゼロ 「NEC環境ターゲット2030」 ・2030年度までにScope1,2で55%、Scope3で33%削減する目標 (ともに2017年度比)
		3	2017/18年	2030/31年	総量	購入した製品・サービス、燃料およびエネルギー関連の活動、販売した製品の使用によるGHG排出量を33%削減	
アズビル(株)	N 1.5℃	1+2	2017年	2030年	総量	排出量を55%削減	「2050年 温室効果ガス排出削減長期ビジョン」 ・自らの事業活動に伴う温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ1+2) については、2050年に「排出量実質ゼロ」を目指します 「2030年 温室効果ガス (GHG) 排出削減目標」 事業活動に伴うGHG排出量(スコープ1+2) 55%削減 (2017年基準) 「2021年8月SBT再認定」 サプライチェーン全体のGHG排出量(スコープ3※2)を20%削減 (2017年基準) 「2019年5月SBT認定」
	N 2.0℃ Z Committed	3	2017年	2030年	総量	排出量を20%削減	

①電機・電子温暖化対策連絡会カーボンニュートラル行動計画参加企業 (グループ参加の場合、筆頭企業名) http://www.denki-denshi.jp/partner_company.php	SBTi認定企業（他）の中長期目標・ビジョン（調査：2023年10月31日時点 ※一部企業は11/6時点の情報） https://sciencebasedtargets.org/companies-taking-action#dashboard N:Near term, L:Long term, Z:Net zero						③2030年・2050年に向けた自社の長期ビジョン・環境目標 ※GHG・CO ₂ 削減に関する内容のみピックアップ ※SBTi認定されている内容も含む
	②SBTi認定されたGHG排出量の削減目標						
	目標水準	Scope	基準年	目標年	指標	削減内容（※Global GHG排出量）	
アンリツ(株)	N 2℃	1+2	2015年	2030年	総量	排出量を30%削減	2050年までに事業活動に伴う温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルを目指す宣言をした これを達成するために2030年をターゲットとする中期目標を引き上げて気候変動イニシアティブ（JCI）に以下の目標を提出し、UNFCCC（国連気候変動枠組条約事務局）のRace To Zero[※1]へ参加しました 【目標年】2050年 【中期目標】Scope1+2[※2]：2030年までに2021年比で42%削減（従来は、2015年度比で30%削減） Scope3（カテゴリー1、11）[※3]：2030年までに2018年比で30%削減 なお、今回のカーボンニュートラル宣言に基づき、現在SBTiから認定を受けている目標（2℃目標）を「産業革命前と比較して気温上昇を1.5℃に抑える」水準と整合した目標に引き上げ、2022年度内にSBTiへ再申請する予定です。
		3	2018年	2030年	総量	購入した製品・サービス、販売した製品の使用による排出量を30%削減	
京セラ(株)	N 1.5℃	1+2	2019/20年	2030/31年	総量	排出量を46.2%削減	「京セラグループ長期環境目標」 温室効果ガス排出量（Scope1,2※） 排出削減目標(1.5℃水準)：2030年度46%削減（2019年度比） 【SBTi認定】 温室効果ガス排出量（Scope1,2,3※） 排出削減目標(1.5℃水準)：2030年度46%削減（2019年度比） 【SBTi認定】 再生可能エネルギー導入量：2030年度20倍（2013年度比） 2050年度 カーボンニュートラル
		3	2019/20年	2030/31年	総量	排出量を46.2%削減	
コニカミノルタ(株)	N 2℃ Z Committed	1+2+3	2005年	2030年	総量	排出量を60%削減 *スコープ3の削減には、購入した商品とサービス、上流の輸送と流通、および販売した製品の使用を含む	長期環境ビジョン「エコビジョン2050」 ①製品ライフサイクルにおけるCO₂排出量を、2025年までに61%削減するとともに、スコープ1,2,3以外のCO₂削減貢献量を80万トン以上とし、カーボンマイナスを達成する ②製品ライフサイクルにおけるCO₂排出量を、2050年までにネットゼロにする 製品ライフサイクルにおけるCO₂排出量を、2030年までに70%削減する
(株)島津製作所	N 1.5℃	1+2	2017年	2030年	総量	排出量を85%削減	「島津グループのCO₂排出量削減目標」 2050年に、当社グループの事業活動で排出するCO₂排出量を実質ゼロとする。 中間目標として、当社グループの事業活動で排出するCO₂排出量を、2017年度比で2030年度85%以上、2040年度90%以上削減する。 当社グループが販売した製品の使用時におけるCO₂排出量を、2020年度比で2030年度30%以上削減する。
		3	2020年	2030年	総量	販売した製品の使用からの排出量を30%削減	

①電機・電子温暖化対策連絡会カーボンニュートラル行動計画参加企業 (グループ参加の場合、筆頭企業名) http://www.denki-denshi.jp/partner_company.php	SBTi認定企業（他）の中長期目標・ビジョン（調査：2023年10月31日時点 ※一部企業は11/6時点の情報） https://sciencebasedtargets.org/companies-taking-action#dashboard N: Near term, L: Long term, Z: Net zero						
	②SBTi認定されたGHG排出量の削減目標						③2030年・2050年に向けた自社の長期ビジョン・環境目標 ※GHG・CO ₂ 削減に関する内容のみピックアップ ※SBTi認定されている内容も含む
	目標水準	Scope	基準年	目標年	指標	削減内容（※ Global GHG排出量）	
セイコーエプソン(株)	N 1.5℃	1+2	2017年	2025年	総量	排出量を34%削減	
		3	2017年	2025年	原単位	購入した製品・サービスと販売した製品の使用からの付加価値あたりの排出量を44%削減	
						「環境ビジョン2050」 ・2030年：1.5℃シナリオに沿った総排出量削減（スコープ1,2,3） ・2023年：全消費電力を100%再生可能エネルギー化 ・2050年：「カーボンマイナス」、「地下資源消費ゼロ」 ※事業活動に起因する全ての温室効果ガス（スコープ1,2,3）の排出を限界まで絞り込み、残ったGHGに相当するCO ₂ を大気中から取り除いて実質的にGHG排出ゼロとし、さらに上回る除去を行った状態をカーボンマイナスと定義し、その達成を目指します。	
(株)ニコン	N 1.5℃ Z Committed	1+2	2013年	2030年	総量	排出量を71%削減	
		3	2013年	2030年	総量	購入した製品、上流輸送、販売した製品の使用による排出量を31%削減	
						「環境長期ビジョン」 ・「脱炭素社会の実現」については、2051年3月期までにカーボンニュートラル達成をめざしています 「ニコン環境中期目標」 ターゲット年：2031年3月期 ・Scope1※1およびScope2※2における温室効果ガス排出量を2014年3月期比で71.4%削減 ・2031年3月期までに、再生可能エネルギー導入率30% ・Scope3※3の「購入した製品・サービス」「輸送、配送（上流）」 「販売した製品の使用」における温室効果ガス排出量を2014年3月期比で31%削減	
パナソニック ホールディングス(株)	N 1.5℃ Z Committed	1+2	2019年	2030年	総量	排出量を90%削減	
		3	2019年	2030年	総量	販売した製品の使用による排出量を30%削減	
						「Panasonic GREEN IMPACT」 2050年に向けて、現在の世界のCO ₂ 総排出量の「約1%（≒3億トン）」の削減インパクト※を目指します ※ 2019年 エネルギー起源CO ₂ 排出量 336億トン（出典：IEA） 3億トンは2020年の排出係数で算出 ◎環境行動計画「GREEN IMPACT PLAN 2024」概要と2024年度目標 Panasonic GREEN IMPACTの確度向上を目的に、環境行動計画「GIP2024」を策定 ●OWN IMPACT（スコープ1,2,3（※3）領域）：自社VCにおける排出削減インパクト ・CO ₂ 削減量：1,634万トン ・CO ₂ ゼロ工場数：2024年度末までに37工場（2020年度7工場） ●CONTRIBUTION IMPACT：既存事業による社会への排出削減貢献インパクト ・お客様や社会へのCO ₂ 削減貢献量：3,830万トン（2020年度2,347万トン） ◎GREEN IMPACTの2030年度目標 ●OWN IMPACT：CO ₂ 削減量 3,145万トン ●CONTRIBUTION IMPACT：CO ₂ 削減貢献量 9,300万トン	

①電機・電子温暖化対策連絡会カーボンニュートラル行動計画参加企業 (グループ参加の場合、筆頭企業名) http://www.denki-denshi.jp/partner_company.php	SBTi認定企業 (他) の中長期目標・ビジョン (調査: 2023年10月31日時点 ※一部企業は11/6時点の情報) https://sciencebasedtargets.org/companies-taking-action#dashboard N: Near term, L: Long term, Z: Net zero						
	②SBTi認定されたGHG排出量の削減目標						
	目標水準	Scope	基準年	目標年	指標	削減内容 (* Global GHG排出量)	③2030年・2050年に向けた自社の長期ビジョン・環境目標 ※GHG・CO ₂ 削減に関する内容のみピックアップ ※SBTi認定されている内容も含む
富士通(株)	N : 1.5℃ Z : Net zero	1+2	2020年	2030年	総量	"ネットゼロ : 温室効果ガス排出量を目標年度に基準年度の90%以上を削減し、10%以下となった残存排出量を大気中のCO ₂ を直接回収する技術 (DAC) の活用や、植林などによる吸収で除去。"	プレスリリース 富士通グループのバリューチェーン全体の温室効果ガス排出削減目標を、2040年度にネットゼロへ
		3	2020年	2040年	総量	"	環境ビジョン グローバル社会におけるカーボンニュートラルへの取り組みが加速する中、富士通グループが果たすべき社会的役割を再検討し、「2050年度に富士通グループ自らが排出するCO ₂ をゼロエミッション」としてきたこれまでのビジョンを20年前倒しして2030年度にゼロエミッション達成を目指すこととしました。さらにバリューチェーン全体の温室効果ガス排出量を2040年度にネットゼロ (注1) とする目標を定めました。 注1 温室効果ガス排出量ネットゼロ : 温室効果ガス排出量を目標年度に基準年度の90%以上を削減し、10%以下となった残存排出量を大気中のCO ₂ を直接回収する技術 (DAC) の活用や、植林などによる吸収で除去すること。
ブラザー工業(株)	N 1.5℃	1+2	2015年	2030年	総量	排出量を65%削減	「ブラザーグループ 環境ビジョン2050」 2030年度中期目標 [スコープ1+2] 2015年度比で65%削減する [スコープ3] C1・C11・C12 2015年度比で30%削減する 「2030年度 中期目標」は、温室効果ガスの排出削減目標達成を推進するために設立された国際的なイニシアチブ「Science Based Targets initiative (SBTi)」より、科学的根拠に基づいた目標(1.5°C目標)として認定されています。 2050年ビジョン 脱炭素社会への貢献 2050年、ブラザーグループは、あらゆる事業活動のカーボンニュートラル*とバリューチェーン全体のCO ₂ 排出最小化を目指し、脱炭素社会の形成に貢献している。 ブラザーグループから排出するCO ₂ を全体としてゼロにする
		3	2015年	2030年	総量	購入した製品、販売した製品の使用と廃棄による排出量を30%削減	
三菱電機(株)	N 2℃	1+2	2016年	2030年	総量	排出量を18%削減	「環境ビジョン2050」 脱炭素に向けた国際的な流れを尊重し、設計・開発から原材料の調達、製造、販売、流通、使用、廃棄に至るまで、バリューチェーン全体で温室効果ガス排出の削減を推進し、2050年の排出量実質ゼロを目指します。また、2030年度までに工場・オフィスからの温室効果ガス排出量実質ゼロを目指します。 「三菱電機グループの削減目標」 (SBTi認定) スコープ1+2 2030年までに温室効果ガス排出量を2016年度基準で18%削減 スコープ3 2030年までに温室効果ガス排出量を2018年度基準で15%削減
		3	2018年	2030年	総量	排出量を15%削減	
(株)明電舎	N WB2℃	1+2	2019/20年	2030/31年	総量	排出量を30%削減	「明電グループの温室効果ガス排出削減目標」2030年度目標 (SBTi認定) 事業活動に伴う排出 (Scope 1 + 2) : 30%削減 [2019年度比] 製品の使用段階の排出 (Scope 3 カテゴリ11) : 15%削減 [2019年度比]
		3	2019/20年	2030/31年	総量	販売した製品の使用による排出量を15%削減	

①電機・電子温暖化対策連絡会カーボンニュートラル行動計画参加企業 (グループ参加の場合、筆頭企業名) http://www.denki-denshi.jp/partner_company.php	SBTi認定企業（他）の中長期目標・ビジョン（調査：2023年10月31日時点 ※一部企業は11/6時点の情報） https://sciencebasedtargets.org/companies-taking-action#dashboard N:Near term, L:Long term, Z:Net zero						③2030年・2050年に向けた自社の長期ビジョン・環境目標 ※GHG・CO ₂ 削減に関する内容のみピックアップ ※SBTi認定されている内容も含む
	②SBTi認定されたGHG排出量の削減目標						
	目標水準	Scope	基準年	目標年	指標	削減内容（※Global GHG排出量）	
(株)安川電機	環境省SBT支援事業	1+2	2018年	2030年	総量	排出量を51%削減（2050年にの事業活動に伴うCO ₂ 排出量を実質ゼロ（カーボンニュートラル）を目指す）	「環境ビジョンと目標」 2050年に当社グループの事業活動に伴うCO₂*排出量（スコープ1+スコープ2）を実質ゼロ（カーボンニュートラル）を目指します。これに伴い、2030年の同CO₂排出量を2018年比で51%削減します。さらに、サプライチェーンの上流や下流のCO₂排出量（スコープ3）に対しても2030年のCO₂排出量を2020年比で15%削減します（SBTi認定取得済）。 2025年に製品によるCO₂削減貢献量をグループによるCO₂排出量の100倍以上とする独自の目標「CCE100」
		3	2020年	2030年	総量	排出量を15%削減	
オムロン(株)	N 1.5℃	1+2	2016年	2030年	総量	排出量を65%削減	温室効果ガス排出量の削減 目標（SBTi認定済） スコープ1・2（自社領域から直接的・間接的に排出される温室効果ガス） 2050年度 温室効果ガス排出量ゼロ 2030年度 65%削減（2016年度比） 2024年度 53%削減（2016年度比） 2024年度 国内全76拠点においてスコープ2をカーボンゼロ スコープ3：カテゴリー11（製造・販売した製品・サービス等の使用に伴う排出量） 2030年度 18%削減（2016年度比）
		3	2016年	2030年	総量	販売した製品の使用による排出量を18%削減	
カシオ計算機(株)	N WB2℃	1+2	2018年	2030年	総量	排出量を38%削減	「長期目標」カシオグループ全体の温室効果ガス排出量（スコープ1、2）を2050年度までにゼロを目指す 「中期目標」カシオグループ全体のマーケット基準の温室効果ガス排出量（スコープ1、2）を2018年度基準で2030年度までに38%削減する
		3	2018年	2030年	総量	購入製品・サービスと、販売した製品の使用による排出量を30%削減	
浜松ホトニクス(株)	N WB2℃	1+2	2019年	2031年	総量	排出量を30%削減	「地球温暖化対策に係る長期ビジョン」 104期（2051年9月期）に温室効果ガス排出量（スコープ1+2）※1を71期比83 %以上削減する <中長期目標> 非エネルギー起源温室効果ガスの合計を83期(2030年9月期)までに66期(2013年9月期)比44 %削減する。 <短期目標> 非エネルギー起源温室効果ガスの合計を77期(2024年9月期)までに66期(2013年9月期)比28.5 %削減する。
		3	2019年	2031年	総量	販売した製品の使用による排出量を15%削減	
		3	-	2026年	-		

①電機・電子温暖化対策連絡会カーボンニュートラル行動計画参加企業 (グループ参加の場合、筆頭企業名) http://www.denki-denshi.jp/partner_company.php	SBTi認定企業（他）の中長期目標・ビジョン（調査：2023年10月31日時点 ※一部企業は11/6時点の情報） https://sciencebasedtargets.org/companies-taking-action#dashboard N:Near term, L:Long term, Z:Net zero						
	②SBTi認定されたGHG排出量の削減目標						③2030年・2050年に向けた自社の長期ビジョン・環境目標 ※GHG・CO ₂ 削減に関する内容のみピックアップ ※SBTi認定されている内容も含む
	目標水準	Scope	基準年	目標年	指標	削減内容（※Global GHG排出量）	
富士電機(株)	N 1.5℃	1+2	2019年度	2030年度	総量	排出量を46.2%削減 「環境ビジョン2050」 脱炭素社会の実現：サプライチェーン全体でカーボンニュートラルを目指します 「2030年度目標」 産業革命前と比較した気温上昇を1.5℃に抑えるため、以下の目標達成を目指します。 ●サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量（Scope1+2+3）46%超削減（2019年度比） ●生産時の温室効果ガス排出量（Scope1+2）46%超削減（2019年度比）※1 ●製品による社会のCO ₂ 削減貢献量 5,900万トン超/年	
		3	2019年度	2030年度	総量	排出量を46.2%削減 ※購入した商品およびサービス、資本財、燃料およびエネルギー関連活動、上流の輸送および流通、事業で発生する廃棄物、出張、従業員の通勤、上流のリース資産、販売した製品の使用からの絶対的なスコープ3 Scope1,2とScope3(カテゴリ1-8,11)の削減目標は、国際的イニシアチブであるSBTi (Science Based Targets initiative) による「1.5℃水準」の認証を取得しました。 ※1：2013年度比削減率 54%	
ローム(株)	N 1.5℃	1+2	2018年	2030年	総量	排出量を50.5%削減 「ロームグループ 環境ビジョン2050」を策定 ・「気候変動」対策を持続可能性の実効性を図る重要な指標とし、事業活動により発生する2050年度のCO ₂ 排出量実質“ゼロ”を目指します https://www.rohm.co.jp/news-detail?news-title=2021-04-26_news_environment&defaultGroupId=false	
		3	2018年	2030年	総量	販売した製品の使用による排出量を15%削減 <中長期環境目標> 温室効果ガス（GHG）排出量を2050年にゼロにすることを目指し、2030年度に2018年度実績より50.5%以上削減します。また、2030年に向けた温室効果ガス削減目標については、パリ協定の「2℃目標」を達成する上で科学的な根拠があると認められ、「SBTi(Science Based Target initiative)」より「1.5℃水準」の認定を取得しました。 イニシアチブへの参画、外部からの評価 ロームのサステナビリティ ROHM Corporate Social Responsibility	

①電機・電子温暖化対策連絡会カーボンニュートラル行動計画参加企業 (グループ参加の場合、筆頭企業名) http://www.denki-denshi.jp/partner_company.php	SBTi認定企業（他）の中長期目標・ビジョン（調査：2023年10月31日時点 ※一部企業は11/6時点の情報） https://sciencebasedtargets.org/companies-taking-action#dashboard N:Near term, L:Long term, Z:Net zero						③2030年・2050年に向けた自社の長期ビジョン・環境目標 ※GHG・CO ₂ 削減に関する内容のみピックアップ ※SBTi認定されている内容も含む
	②SBTi認定されたGHG排出量の削減目標						
	目標水準	Scope	基準年	目標年	指標	削減内容（※Global GHG排出量）	
(株)村田製作所	N 1.5℃	1 + 2	2019年	2030年	総量	排出量を46%削減	<u>目指す姿</u> RE100やSBTiに沿った事業運営によって、モノづくりにおける温室効果ガス（以下GHG）の削減を目指します。 <u>2024年度目標</u> GHG排出量（2019年度比） Scope 1 + Scope 2：128万t-CO ₂ e（20%減） 再生可能エネルギー導入比率：25% <u>2030年度目標</u> GHG排出量（2019年度比） Scope 1 + Scope 2：87万t-CO ₂ e（46%減） Scope 3：325万t-CO ₂ （27.5%減） 再生可能エネルギー導入比率：50%
		3	2019年	2030年	総量	排出量を28%削減	<u>2050年度目標</u> 再生可能エネルギー導入比率：100%
イスベック(株)	N 1.5℃	1 + 2	2019	2030年	総量	排出量を60%削減	長期目標として2030年度までの温室効果ガス（GHG）排出量削減目標を設定しました。2019年度比GHG排出量SCOPE 1+2（自社排出）60%削減、SCOPE 3（間接排出）30%削減を目指し、取り組んでいきます。
		3	2019	2030年	総量	排出量を30%削減	
日新電機(株)	N WB2℃	1 + 2	2018/19年	2030/31年	総量	排出量を35%削減	<u>日新電機グループの中長期計画「VISION2025」</u>
		3	2018/19年	2030/31年	総量	排出量を30%削減	平成30年度「環境省脱炭素経営による企業価値向上促進プログラム」の支援を受け、モデル事業における支援のもと、2030年度までに事業活動に伴う温室効果ガス排出量を、世界の気温上昇を産業革命前より2℃を十分に下回る水準で目標値を設定しました。（SBTi認定取得済） ・Scope※1+2：2018年度基準で、2030年度までに35%削減する。 ・Scope3：2018年度基準で、2030年度までに30%削減する。
横河電機(株)	N 1.5℃	1 + 2	2019年度	2030年度	総量	排出量を50%削減	<u>サステナビリティ目標</u> ・Scope1+2：2030年度までに50%削減（2019年度比）、2040年度までに100%削減（2019年度比） ・Scope3：2030年度までに30%削減（2019年度比）
		3	2019年度	2030年度	総量	排出量を30%削減	

①電機・電子温暖化対策連絡会カーボンニュートラル行動計画参加企業 (グループ参加の場合、筆頭企業名) http://www.denki-denshi.jp/partner_company.php	SBTi認定企業（他）の中長期目標・ビジョン（調査：2023年10月31日時点 ※一部企業は11/6時点の情報） https://sciencebasedtargets.org/companies-taking-action#dashboard N:Near term, L:Long term, Z:Net zero						③2030年・2050年に向けた自社の長期ビジョン・環境目標 ※GHG・CO2削減に関する内容のみピックアップ ※SBTi認定されている内容も含む
	②SBTi認定されたGHG排出量の削減目標						
	目標水準	Scope	基準年	目標年	指標	削減内容（※Global GHG排出量）	
TDK(株)	N committed Z Committed					TDK環境・安全衛生活動2025 行動計画 CO2排出原単位 50%改善(2035年度まで) ・Scope1,2:CO2排出原単位30%改善(2025年度) ・Scope3:CO2排出30%改善に相当する削減活動の創出(2025年度)	
						TDK環境ビジョン2035 ・ライフサイクル的視点でのCO2排出原単位を2035年までに半減	
						TDKマテリアリティ 2050年CO2ネットゼロ 2025年 生産工場 再生可能エネルギー導入率 50%(Scope2)	
沖電気工業(株)	N committed Z Committed				総量	OKI環境ビジョン2030/2050 2030年度：自社拠点のCO2排出量の42%、調達先と製品使用時のCO2排出量の25%削減（2020年度比） 2050年度：自社拠点のCO2排出量実質ゼロ、新製品の消費電力 実質ゼロ 2030年度の温暖化防止目標はSBTi 1.5℃基準に準拠しており、事務局に申請中です。	
キヤノン(株)	N 1.5℃	1+2	2022年	2030年	総量	排出量を42%削減	※2023/11/6時点の情報 キヤノンのCO2排出削減目標がSBTiの認定を取得
		3	2022年	2030年	総量	排出量を25%削減	

①電機・電子温暖化対策連絡会カーボンニュートラル行動計画参加企業 (グループ参加の場合、筆頭企業名) http://www.denki-denshi.jp/partner_company.php	SBTi認定企業（他）の中長期目標・ビジョン（調査：2023年10月31日時点 ※一部企業は11/6時点の情報） https://sciencebasedtargets.org/companies-taking-action#dashboard N:Near term, L:Long term, Z:Net zero						③2030年・2050年に向けた自社の長期ビジョン・環境目標 ※GHG・CO ₂ 削減に関する内容のみピックアップ ※SBTi認定されている内容も含む
	②SBTi認定されたGHG排出量の削減目標						
	目標水準	Scope	基準年	目標年	指標	削減内容（※Global GHG排出量）	
新電元工業(株)	N:1.5℃	1+2	2021年	2030年	総量	排出量を42%削減	環境ビジョン2050/2030年度環境目標
		3	2021年	2030年	総量	販売した製品の使用により発生する排出量を25%削減	・SBTi認証取得のお知らせ
(株)富士通ゼネラル							中長期環境目標 - バリューチェーン全体(Scope1,2,3) - ・長期目標：2050年度までにカーボンニュートラルの実現 ・中期目標：2021年度基準で、2035年度までに55%削減
キオクシア(株)							・毎年、前年度の総エネルギー使用量(SCOPE2)の1%を削減 ・2040年度までに電力使用(SCOPE2)における再生可能エネルギーの比率100%を目指す ・2050年までに事業場からの温室効果ガス直接排出(SCOPE1)ネットゼロを目指す
ダイキン工業(株)							環境ビジョン2050（2050年に実質排出量ゼロ以下） ダイキンはパリ協定に賛同し、2050年に向けて温室効果ガス排出実質ゼロをめざす「環境ビジョン2050」を策定。2030年削減目標を設定し、戦略経営計画「FUSION25」に織り込んで推進しています。 2019年を基準年とし、未対策のまま事業成長した場合の排出量（BAU）と比した実質排出量を2025年に30%以上、2030年には50%以上の削減をめざします。達成するための施策を戦略経営計画「FUSION」で実行します

①電機・電子温暖化対策連絡会カーボンニュートラル行動計画参加企業 (グループ参加の場合、筆頭企業名) http://www.denki-denshi.jp/partner_company.php	SBTi認定企業（他）の中長期目標・ビジョン（調査：2023年10月31日時点 ※一部企業は11/6時点の情報） https://sciencebasedtargets.org/companies-taking-action#dashboard N: Near term, L: Long term, Z: Net zero						
	②SBTi認定されたGHG排出量の削減目標						③2030年・2050年に向けた自社の長期ビジョン・環境目標 ※GHG・CO ₂ 削減に関する内容のみピックアップ ※SBTi認定されている内容も含む
	目標水準	Scope	基準年	目標年	指標	削減内容（※Global GHG排出量）	
山洋電気(株)						<u>CO₂排出量削減目標 (Scope1,2)</u> <u>2030年度：46%削減 (2017年度比)</u> <u>2050年度：カーボンニュートラル達成</u>	
(株)ダイヘン						<u>CO₂排出量(Scope1+2)：2027年度 2013年度比 46%削減、2050年カーボンニュートラル</u> <u>CO₂排出量(Scope3・カテゴリー11)：2030年度 2020年度比 25%削減</u>	
アルプスアルパイン(株)						<u>2050年度目標：</u> <u>バリューチェーン全体のGHG排出量ゼロ</u> <u>2030年度目標：</u> <u>GHG排出量(スコープ1,2)：90%削減(2020年度比)</u> <u>使用する電力の再生可能エネルギー比率：100%</u>	
ニチコン(株)						<u>当社グループの事業活動に伴う温室効果ガス排出量 (Scope1,2,3) の総量削減目標として、2030年度に46%削減 (2021年度比)、2050年にカーボンニュートラルを目指します。</u>	

<p>①電機・電子温暖化対策連絡会カーボンニュートラル行動計画参加企業 (グループ参加の場合、筆頭企業名) http://www.denki-denshi.jp/partner_company.php</p>	<p>SBTi認定企業（他）の中長期目標・ビジョン（調査：2023年10月31日時点 ※一部企業は11/6時点の情報） https://sciencebasedtargets.org/companies-taking-action#dashboard N:Near term, L:Long term, Z:Net zero</p>						
	<p>②SBTi認定されたGHG排出量の削減目標</p>					<p>③2030年・2050年に向けた自社の長期ビジョン・環境目標 ※GHG・CO₂削減に関する内容のみピックアップ ※SBTi認定されている内容も含む</p>	
<p>サンケン電気(株)</p>	<p>目標水準</p>	<p>Scope</p>	<p>基準年</p>	<p>目標年</p>	<p>指標</p>	<p>削減内容（※Global GHG排出量）</p>	<p>基準年 2020年 目標年 2030年・2050年 目標 2030年…基準年比33%減、2050年…カーボンニュートラル達成 気候変動への取組み 環境について / TCFD サステナビリティ サンケン電気株式会社 (sanken-ele.co.jp)</p>
<p>BIPROGY(株)</p>							<p>■環境長期ビジョン (https://biprogy.disclosure.site/ja/themes/118)</p> <p>■環境目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GHG排出量 (Scope1+Scope2) 削減率 (2019年度比) 50%以上 (目標年: 2030年度) ・購入した製品・サービス (Scope3カテゴリ1) の調達金額の40%を占めるサプライヤーがSBTi相当の目標を設定する (目標年: 2027年度) ・グループの事業所における再生可能エネルギー調達率50%以上 (目標年: 2030年度) <p>(指標・目標)</p> <p>※Scope1,2,3排出削減目標はSBT基準に準拠しており、SBTiへ申請予定です。(SBTiへコミットメントレターを提出済み)</p>
<p>(株)東光高岳</p>							<p>2030年度のエネルギー由来CO₂排出量を2014年度比46%以上削減する</p>